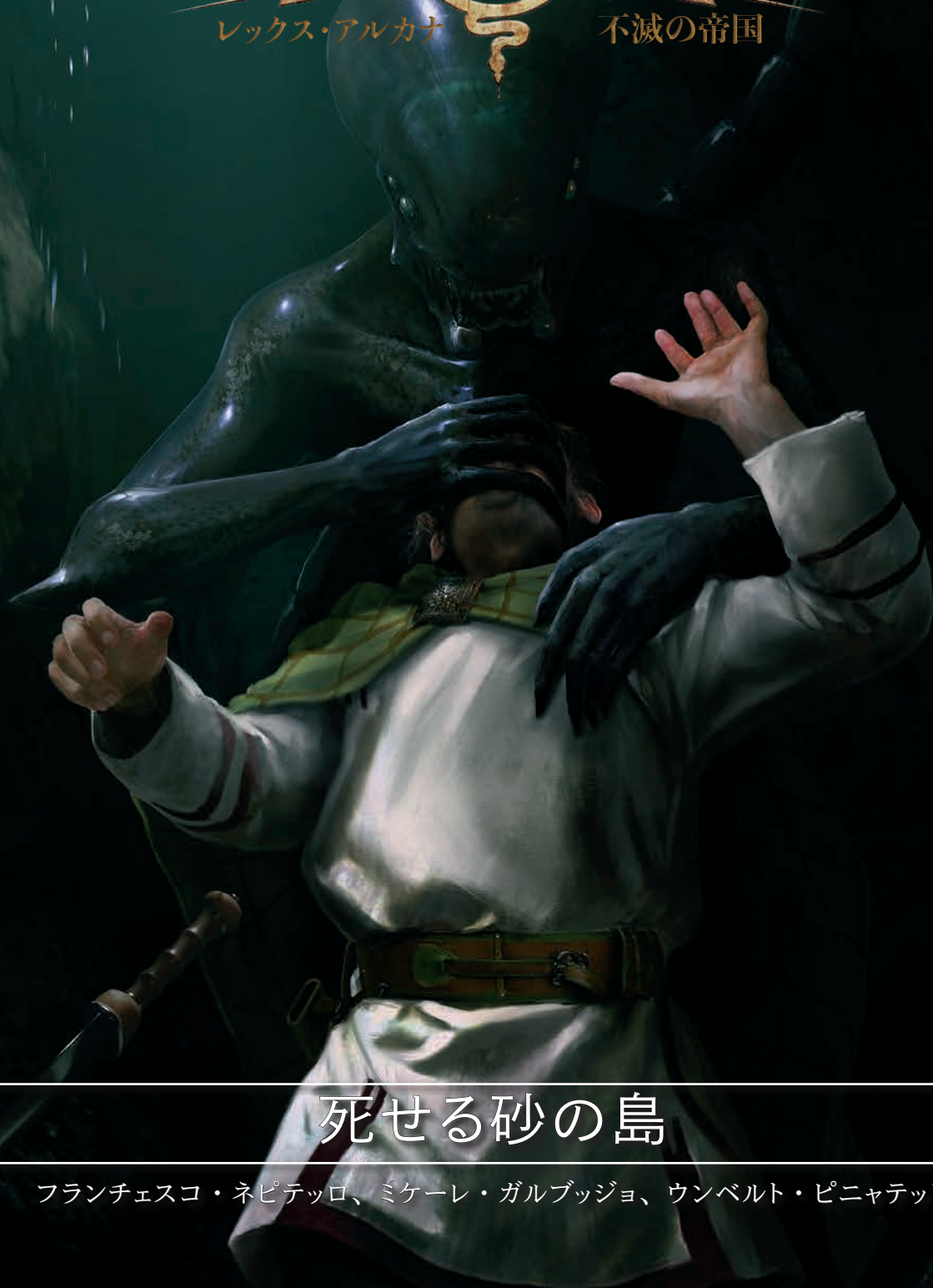




LEX·ARCANA

レックス・アルカナ 不滅の帝国



死せる砂の島

フランチェスコ・ネピテッロ、ミケーレ・ガルブジッジョ、ウンベルト・ピニャテッリ

無料版



LEX·ARCANA

レックス・アルカナ 不滅の帝国



死せる砂の島

フランチェスコ・ネピテッロ, ミケーレ・ガルブジッジョ, ウンベルト・ピニャテッリ

イラスト

カバーイラスト: ジョルジョ・ドナート (Giorgio Donato)

その他イラスト: ファビオ・ポルフィディア (Fabio Porfidia), ジョルジョ・ドナート

レイアウト: シモーネ・ベルッツィ (Simone Peruzzi), マッテオ・ケレサ (Matteo Ceresa)

レックス・アルカナ / LEX ARCANA®

レオナルド・コロヴィニ (Leonardo Colovini), ダリオ・デ・トッフォリ (Dario De Toffoli), マルコ・マッジ (Marco Maggi),
フランチェスコ・ネピテッロ (Francesco Nepitello)

コア・ルールブック第2版デザインおよび開発: マルコ・マッジ、フランチェスコ・ネピテッロ、レオナルド・コロヴィニ (アドバイザー)

追加デザインおよび監督: ミケーレ・ガルブジッジョ (Michele Garbuggio)

歴史考証: フランチェスカ・ガレロ (Francesca Garelo)

クリエイティブ・ディレクター: アンドレア・アンジョリーノ (Andrea Angiolino)

プロジェクト・マネージャー: ヴァレリオ・フェルツィ (Valerio Ferzi)

スペシャルサンクス: ジョヴァンニ・カロン (Giovanni Caron), グレゴリー・アレジ (Gregory Alegi), リヴィア・アレジ (Livia Alegi), ニコラ・デゴッビス (Nicola DeGobbis), マルコ・ムナリ (Marco Munari), マッテオ・ペドロニ (Matteo Pedroni), セルジョ・ディノチェンツォ (Sergio d'Innocenzo), パオロ・フェデリ (Paolo Fedeli), アlessandro・皇帝・マルモリーニ (Alessandro "THE EMPEROR" Marmorini)

日本語版制作

翻訳: 口藏佳希 (Yoshiki Kuchikura), 鮎方高明 / ハロウ・ヒル (Takaaki Ayukata / Harrow Hill)

翻訳サポート: グラナテッロ・エマヌエーレ (Emanuele Granatello)

編集・レイアウト: ダヴィデ・マンナ (Davide Manna)

注意: このシナリオ・ブックは非売品です。著作権侵害は法律に則って起訴されます。

©2019 Quality Games S.r.l. - Italy

LEXARCANA® は、米国およびその他の国における Quality Games S.r.l. の登録商標です。

ALL RIGHTS RESERVED

Lex Arcana © 1994 Lex Arcana © 1994 Leo Colovini, Dario De Toffoli, Marco Maggi e Francesco Nepitello



海賊PRESS



レックス・アルカナ

不滅の帝国

死せる砂の島

はじめに

このレックス・アルカナの短編シナリオが最初にプレイされたのは2回目のRPGコンベンション、2019年1月のフィレンツェでのことでした。

このシナリオは当時のバージョンと比べ、主な敵のデータが第2版のルール用に更新されています。このシナリオ向けのイラストも追加されました。すべて第2版用になっています。

デーミウルグスではなくクストスとしてゲームに参加したい場合は、ここから先を読むのはやめてください。

それでは良いゲームを！

帝国国境では、あなたの
悲鳴は誰にも聞こえない

ブリタンニアでの危険な任務からの帰路の途上、クストーデスは、デメトリウスが船長を務める、イベリア半島のカルタゴ・ノウァ行きのギリシャ船、ナウクレオス号の乗客となった。ロンディニウムを出発したナウクレオス号は、イベリア半島沿岸を20日間かけて順調に進んでいたが、ある夜、ヘーラクレースの柱*を通過する際、激しい嵐に見舞われる。

船は波にあおられ、クストーデスは最悪の事態を免れるために、乗組員たちを手伝わなければならなくなる。近くの島の輪郭を垣間見たものの、雷光によってすべてが白く消失したように見える。またこの事態に乗じて奴隷たちは、船の底部にいる警備兵たちに襲いかかって甲板に踊り出て、今までの仕返しのため、そのまま船を乗っ取ることを決意した。

船長の助けを借りたクストーデスは、なんとか奴隷たちの包囲を脱出し、救命艇に乗って船を離れる。嵐を乗り切った彼らは、ようやく訪れた夜明けの光に照らされた浜辺を見つけ、到着したところで疲労の前に屈した。目を覚ましたクストーデスは、ここがどこなのかを突き止めようとする。そこは、マウレタニア**にある岩がちな島のような島だった。デメトリウスは、反乱を起こした奴隷のリーダーである、元軍団長でもあるウォーターディーニ族***の大柄なブリタンニアの戦士、エオーガンが追っ手を差し向けてくるとクストーデスに対して警告する。

島は長さ約3キロメートル、幅約2キロメートル。浜辺を探索したクストーデスは、奴隷たちに乗り捨てられた救命舟のひとつ（壊れずに残った唯一の小舟）と、そこから内陸に続く道を見つけることができる。その道をたどっていくと、彼らは、この島がすでに生命力を失っていることを悟ることになる。



ナウクレオス号

貨物船ナウクレオス号

乗組員：77名

積み荷：ブリタンニア産の羊毛2000個、スズと鉄の棒70トン、牛12頭、ブリタンニア奴隷10人

目的地：イベリア半島、カルタゴ・ノウァ



かつて肥沃だった土壌は今や粒の細かい砂の層で覆われ、すべての生物のすみかを奪っているのだ。道からそれて島の中心に向かって進むと、クストーデスは、隕石の落下によって引き起こされたであろう深いクレーターを見つける。おそらくこの隕石の衝突が砂を巻き上げ、島全体が砂に覆われたのだろう。クレーターは深すぎるため、適切な装備がなければ内部を探索することはできない。

奴隷たちの足跡をたどると（あるいは幸運にも小道を発見すると）、クストーデスは救命舟の反対側の海岸にある、不気味な冷気に覆われた小さな廃村にたどり着く。脱走した奴隷たちの足跡はここで途切れている。クストーデスが島の住民がどこに行ってしまったのかを疑問に思い付近を探索する場合には、エオーガン率いる10人の奴隷たちに待ち伏せされる恐れがある。

彼らブリタンニア人たちは、クストーデス一行を殺すつもりはない。島から離れてイベリア半島の海岸に向かうには、彼ら、特にデメトリウス船長が必要だからだ。事実、大きな屋根のある小屋の中では、奴隷たちがほとんど出航準備を整えた状態の小船を発見できる。あとはそれを海に滑り込ませるだけでいいのだが、そのためには潮目の関係で夜になるのを待つ必要がある。また奴隷たちは航路を保つ方

* 訳注：ジブラルタル海峡の岬。

** 訳注：現在の北部西アフリカから北部中央アフリカを含む一帯。

*** 訳注：現在のスコットランド南東部とイングランド北東部にいたブリトン人の一部族。



法を知らないため、デメトリウス船長が必要なのだ。彼らは、イベリアの海岸に到着したらクストーデスと船長を解放することを約束する。

クストーデスも島から脱出する必要がある。休戦して反逆者たちと協力することが、彼らにとれる唯一の解決策のようだ。一方で島には食料が全くないように見え、実際、反抗的な奴隷たちはとても空腹になっている。そのうちのとくにドラストとファーエルと呼ばれる二人が、クストーデスを殺して食料にしようと話しているのが聞こえてくる。その発言が彼らの間に強い緊張感を引き起こすが、奴隷のうちの一人が「未知の神に捧げられた小さな神殿に通じる洞窟を見つけた」と言って村に戻ってきたことで、緊張もまた解ける。その洞窟の中には、明らかに肉でできた奇妙な形のアンフォラ*が数多く置かれている。エオーガンはすぐに、彼の部下が奇妙な「大きな箱」に近付くことを禁じるが、時すでに遅く、彼の部下はそこに近付いてしまっていた。

クストーデスが廃村を調査する場合、薬屋の家で、「天から落ちてきた石」「大量死」「悪の種」について記した数年前の日記が見つかる。日記の記述は突然途切れている。

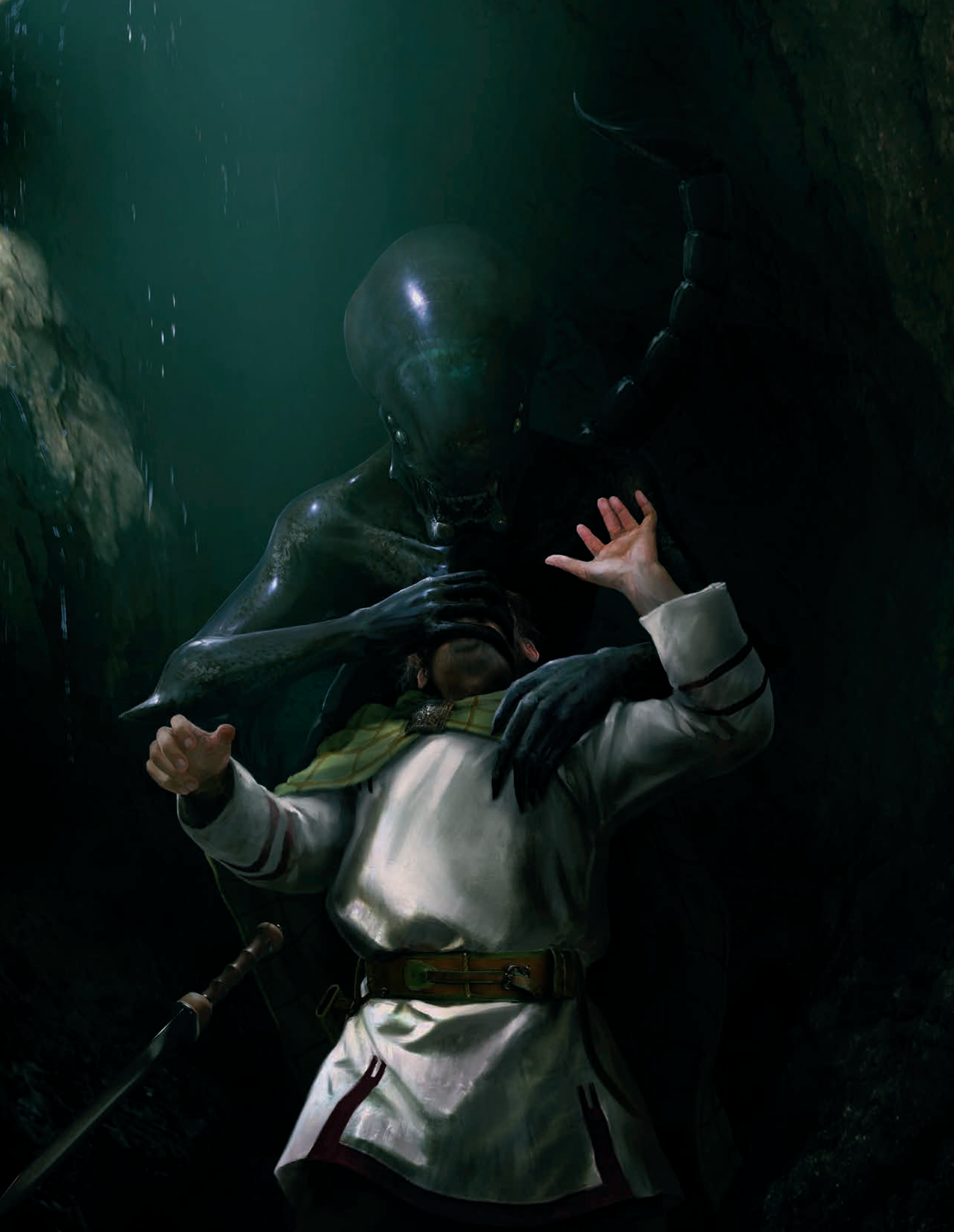
ついに夜がやってくると、それとともに潮の流れが戻ってくる。クストーデスと奴隷たちは、背中を使って小船をドックに向けて押し込んでいく必要がある。そうしているとふいにファーエルの様子がおかしくなり、そのまま地面に倒れて痙攣し始める。すると彼の体から突然、小さな目のないドラゴンに似た恐ろしい怪物が現れる。それは夜闇の中でシューツという音を立てており、奴隷の死体だけが残される。

この時点で、クストーデスは次に何をすべきか決断に迫られる。奴隷たちはすぐに出航して島を脱出したいと訴えるが、夜の航海はさらに危険だ。ただしきほどの怪物が再び襲いかかってきたとしても、クストーデスは小さな港の中に残されたウインチ、松ヤニ、その他の道具を使って身を守ることができる。怪物とはいえ、まだとても幼いからだ。

乗船すると、クストーデスはこの呪われた島を離れることができる。哀れなファーエルのために泣くのは、彼の友人のドラストだけだ。彼はファーエルと一緒に数時間前にアンフォラを調べており、今ではその体の中で「悪の種」が発芽の時を待っている。

クストーデス一行は、無事に夜明けの光を見るだろうか？

* 訳注：陶器製の壺。地中海世界で広く使われた。





インテルネシウス・ラプトル“死の盗賊”

「壁から出てくるぞ! やつら壁からウジャウジャ出てきやがる!」

咒法大隊所属ブリタンニア属州探索官、ルキウス・グイレルムス・ティベリスの最期の言葉

この生物は人間に似た外見で、二足歩行をし、2本の脚と2本の腕を持っているが、それに加えて変形した非常に細長い頭蓋骨と、長くて力強い尾を持っている。直立したときには2メートル以上の高さになるが、歩いたり走ったりするときはそれに適した身をかめた姿勢をとる。二足歩行、四足歩行の両方で非常に速く動くことができ、簡単に壁や天井に沿って走ったり登ったりすることができる。

超人的な力と、ドアを破壊したり最も頑丈な鎧をも引き裂いたりすることができる強力な爪に、鋭い歯をも備えている。長い尾は二つに分かれ、サソリの針のように先のとがった口吻が付いている。しかし、この悪夢のような存在を完全なものにするための何よりの武器は、この生物の巻き取り式の舌だ。舌先に第二の歯を持っており、いかなる獲物でも死に至らしめる力を持ち、鎧や肉や骨を貫くことができる。

黒色または青銅色の体は、この生物が生きた恐ろしい彫像であるかのように、卓越した抵抗力のある鎧でほぼ全身が覆われている。この鎧のような皮膚は、斬撃や打撃をほとんど通さない。さらにもし武器でこの皮膚を破壊できたとしても、すべての傷口からは強い毒性を持った血液が激しく噴出する。それは攻撃者を盲目にしたり、重度の火傷を負わせたり、接触したあらゆる物質を腐食させる効果を持っている。

この生物は寡黙な捕食者であり、自身の種の生存と繁殖のためだけに行動する。これまでに記録された情報では、この生物が単独で行動するハンターであることがわかる。しかし一方で、集落全体を壊滅させる群れが存在するという恐ろしい伝説も残されている。

しかし、この生物に出会った獲物にとって、死はおそらく最も悲惨な運命ではない。実際、この生物は獲物を生け捕りにし、それらを宿主として新たな生物を生み出すと言われている。この生物を駆除するには、この生物が出没した地域の周辺に生存者が残っていたとしても、彼らをも一緒に始末することが不可欠となる。

インテルネシウス・ラプトル“死の盗賊”

危険度：3

サイズ：3

ダイス種：D6（若い個体）またはD8（成熟した個体）

1 個：ダメージ

2 個：ダメージ（対象をつかんでいるとき）、センスイビリタース 感覚

3 個：デ・ベッコ 兵学、デ・コルボレ 身体学、ヒットポイント

ヒットポイント：18（若い個体）または24（成熟した個体）

防護値：キチン質の甲羅（防護値はダイス種と等しい。D6またはD8）

🔪 特殊能力：酸の血液（1DV）、わしづかみ、隠密行動、異常な速さ

酸の血液

この能力の対象者は コオルディナティオ 運動 判定によって回避を試みることができる。対象者が盾を持っている場合、盾の受け値をそのまま判定の結果に加算する（たとえば、受け値2の盾を持っているクストスは、判定の結果に+2する）。判定に失敗した場合、対象者には酸の血液が噴射され、すぐにダイス1個（上記「ダイス種」と同じ。D6またはD8）での判定の結果と同じダメージを受ける。このダメージは テンブス 3拍のあいだ、各 テンブス 拍の開始時に同じキャラクターに同じ量のダメージを継続して与える。

通常、どんな鎧でもこの攻撃によって受けるダメージを軽減することができるが、酸によって溶かされ、少しずつ効果が低下していく。軽減するダメージ1ポイントごとに防護値1ポイントが失われる。防護値が0まで減少すると、鎧は破壊され失われる。状況に応じてデーミウルグスは、この生物の腐食性の血液が流出することによる追加効果を設定することができる。たとえばこの生物と船内で遭遇した場合、血液が船の甲板を突き破り、ついには船体を突き破って、船が沈没してしまう可能性があるだろう。



“そしてロームルスは自らの民族の王笏を受け取り、マールスの壁を築く。それから人々をローマ人と呼ぶだろう。私は彼らの所有物に対し、境界も、期限をもまた定めない。私は彼らに、終わりなき帝国を与えたのだ。”

『アエネーイス』ウェルギリウス



KAIZOKU PRESS